



## 水鳥の観察

### 学習のねらい

- 水鳥のしぐさを観察することで、びわ湖周辺に渡ってくる水鳥に興味・関心をもつことができる。
- 水鳥の種類について調べることで、びわ湖の生き物の多様性に気づくことができる。
- 竹生島のカワウによる糞害や魚の食害などの事例から、生態系の課題について考えることができる。
- びわ湖の生き物と人々の生活の関わりについて考えることができる。

### 準備物

#### うみのこ船内で準備できるもの

- ・ 双眼鏡
- ・ 観察用しぐさシート
- ・ フィールドスコープ
- ・ (電子黒板)
- ・ (タブレットPC)

#### 乗船校で準備するもの

- ・ 水鳥の観察ワークシート

### 主な学習の流れ

### ポイント (○) 及び留意点 (☆)

はじめ	1. 本学習のめあてを確認する。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。
なか	2. 湖岸や甲板から水鳥の特徴やしぐさを観察し、しおりや <u>(タブレットPC)</u> をもとに種類を見分ける。(渡りの時期、生活の様子など)  3. ワークシートに記録し、気づいたことや考えたことを交流する。  4. 水鳥をとりまく環境について考える。	☆大声を出さないようにし、双眼鏡の使い方は事前に指導しておく。 ○観察の視点としては、水鳥の体形や色、体の沈み具合、頭や尾の向きなどの特徴があげられる。  ○水鳥の生息する湿地の保全と人々の生活との関わりについて考えられるように、「ラムサール条約」を紹介する。
おわり	5. 本学習のまとめをする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。 ○学習のまとめ②や乗船後の学習につながるようにする。

(※1) 活動場所・・・ 大津港・長浜港・琵琶湖大橋港・今津港・甲板

(※2) 実施時期・・・ 11月～2月

※うみのこ船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。